

力強い和太鼓の音色とラッセーラ再興へ

伝統の音とアップテンポを合わせた迫力ある太鼓パフォーマンス。天狗みこしの先導を担う手九野太鼓は、1994年に9人の叩き手で結成しました。「ラッセーラ」は先代で柿崎さんの父伸明さんが、青森県のねぶた祭の踊りと、徳島県の阿波踊りのかねや太鼓を元に振り付けました。

柿崎さんが代表になると、和太鼓の技術や曲づくりを基礎から学び、楽曲を増やしてきました。「感性を乗せて心地良さを届けたい」。沼田まつり2日目（4日）夜の和太鼓パフォーマンスも恒例で、市内のさまざまなイベントでの活動にも力を入れています。

今年天狗みこし渡御の発着が、旧市役所から変更。「ラッセーラ」はあの場所から始まった。前回のフィナーレは感慨深かった」と振り返り、「心新たに和太鼓で祭りを盛り上げたい」と力を込めます。手九野太鼓は随時メンバーを募集しています。



手九野太鼓代表 柿崎映児さん

沼田はてんぐとの結びつきが強いまちです。日本三大てんぐの迦葉山弥勒寺にはじまり、街中には場所の名前にてんぐが使われていたり、大天狗や石像が設置されたりとてんぐだらけ。てんぐをお神輿に掲げ、巨大な「天



現在参加している2基のうち、大きい方の鼻の高さは2.9メートル、顔の大きさは縦4.2メートル

天狗みこしは21年ぶりに海外へ進出。「まつりインハワイ」では、パレードのトリを務めた（右）天狗山車太鼓もみこし渡御先導役を担い、祭りの1カ月前から柿崎さんが指導に当たっている（左）



狗みこし」を女性だけで担ぐのが沼田の名物です。天狗みこしは交通安全を祈願するために制作され、昭和47年に沼田まつりに登場。天狗みこしの鼻を空高くかかげ、「サア、サア」と声を響かせ練り歩きます。

和太鼓や踊りにぎやかに 天狗みこし 威勢良く

最も盛り上がるフィナーレで、要所要所に打ち込む手九野太鼓（右）と、担ぎ手以外も結集し、踊って跳ねて躍動する大勢の人たち（左）



ハワイでてんぐPR

「疲れも痛みも忘れるほど楽しくて。大人数で一体感を味わえることが最高です」約25年前、小林ゆり江さんは沼田まつりで天狗みこしを担いで以来夢中になり、担ぎ手奉仕団の華翔連で活躍しています。渡御終了後にメイン会場で締める踊り「ラッセーラ」は、達成感を味わえ気持ちが高揚します。

2016年、「まつりインハワイ」へ参加するため、天狗みこしがハワイへ出張。約200パーツに分割できる重さ計300kgの天狗面を段ボールで製作しました。当日は市内外から約60人、現地の日系人も参加。カラカウア通りを練り歩き、「てんぐは目を引き盛り上がった」と振り返ります。



天狗みこし渡御の約3時間、そろいの支度で沼田のまちを踊りながら回る舞華

4年ぶりの沼田まつりへの思いは熱く、「我慢していたパワーを発散し、元気に担ぐ姿を見てほしい」と小林さん。本市出身で台湾紅茶産業の発展に貢献した新井耕吉郎に触れると、「次は台湾。天狗みこしを世界へ広げていきたい」と意気込みます。

◆天狗みこし担ぎ手募集
申し込みは左記フォームまたは産業振興課☎内線5004、沼田商工会議所☎23・1137



申し込みフォーム



華翔連団長 小林ゆり江さん

華麗な踊りで観客魅了

扇を持ち、和とジャズを融合させた線の美しい動きや、空手の型を取り入れた切れのよい踊り。天狗みこしの前で、和太鼓に合わせて踊り続ける「舞華」は、本市出身の学生が上京し、大学のダンスサークルでのスキルを生かして1998年に結成しました。現在、中学生から20代まで約20人が所属しています。

金子望愛さんは、中学1年生のときに舞華に加入。変わることに振り付けにも、真摯に向き合い精度を上げ、今では指導もしています。

「沼田まつりでは4年前に劣らない踊りを披露し、見る人たちに楽しんでもらいたい」と期待をふくらませます。

地元を離れても所属し続ける人が多く、「体験したい」と声を掛けられることも増えているといいます。「舞華はたくさんの人に愛されている。ありがたい」と笑顔をのぞかせます。



舞華代表 金子望愛さん